

寄居子ども博士が13人誕生！

第12回寄居子ども博士検定



11月8日に「第12回寄居子ども博士検定」が行われ、町内の小学4～6年生、37人が受検しました。この検定は、寄居町の歴史や地理、政策、生活に関することなど、町のあらゆる分野に関する知識を問う検定です。今回の検定では、過去最多の13人が子ども博士に認定され、寄居小学校の坂本純菜さんが見事3年連続の博士認定となりました。また、2年連続での認定となったのは折原小学校の藤巻拓也さんと寄居小学校の清野沙帆さんです。清野さんは「今回の博士検定で、私は2年連続博士になることができました。最後の博士検定でしたが、これからもこの町について知っていきたいです」と話してくれました。

第12回寄居子ども博士検定 博士認定者

氏名	得点	備考
坂本 純菜(寄居小6年)	98	3年連続
清野 沙帆(寄居小6年)	98	2年連続
藤巻 拓也(折原小6年)	98	2年連続
守岩 悠希(桜沢小6年)	98	初
金子 結理(男衾小6年)	98	初
新井 陸斗(寄居小5年)	98	初
内田 雄貴(男衾小6年)	96	初
金子 理緒(男衾小6年)	94	初
石井 知沙(寄居小5年)	92	初
塩川 真央(男衾小5年)	92	初
根本 愛衣(男衾小5年)	92	初
卜部 晃一(鉢形小4年)	90	初
小久保文乃(用土小4年)	90	初

※90点以上で子ども博士認定



寄居小学校

左から 坂本純菜さん、清野沙帆さん、新井陸斗さん、石井知沙さん



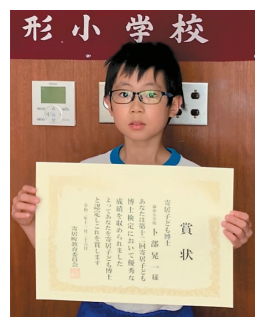
桜沢小学校

守岩悠希さん



折原小学校

藤巻拓也さん



鉢形小学校

卜部晃一さん



男衾小学校

左から 塩川真央さん、根本愛衣さん、金子結理さん、内田雄貴さん、金子理緒さん



用土小学校

小久保文乃さん

寄居町の 民話とは何ぞや？

きえた大水

用土に蓮光寺というお寺があります。むかし、蓮光寺の参道は今よりもっと長くて、参道の入口には、両側にりっぱな松の木が一本ずつ立っていました。まわりは畑なので、この二本松は遠くからでもよく目につきました。

ある日のこと、林のおじいとよばれていたおじいさんが、用事があってでかけました。そのかえり道、蓮光寺の二本松のところまで来たときには、日はすっかり暮れていました。すると、とつぜんあたりに大水が押しよせてきたのです。水はおじいのひざのあたりまでできて、いまにも流されそうになりました。

おじいは、もっていた杖をしっかりと握り、流されないように足をふんばりました。そのとき、杖が「カチン」と、石をうつ音にきびきました。参道には石なんかない。そこでおじいは、急な大水も「カチン」という音も狐の仕業だということに気づきました。そして、狐にだまされないようにするには、自分のまゆ毛につばをぬるといいという話を思い出して、

「こんちきしょう。」

と言いながら、いそいでまゆ毛をぬらして、杖でまわりを打ちました。そのたびに「カチン」「コツン」と、石や土を打つ音がきこえます。「わるさあやめろ！」

と、おじいが大声でいうと、ひざまであった水はさあつと引いてゆき、参道はもとに戻ったそうです。

そして、二本松の下の石塔のかけに、狐がちよんすとすわっていたそうです。



出典「こどものための寄居町民話集」